

# 1 自己評価及び第三者評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームかわにし緑台		
所在地	川西市緑台7丁目3番43号		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	2016年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2016年 2月 27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんてん堂の理念を目標に利用者様、家族様、地域の皆様が安心して利用できる施設を目指している。利用者様の思いに寄り添い出来る限りその方のしたい事を実現できるよう心掛けています。施設の環境が散歩や外出に適していない為、屋上でイベントや、菜園を使用しその季節に応じた野菜や花を育て季節感を味わって頂けるようにしている。地域密着型の施設として地域の祭りや文化祭等に利用者様と一緒に参加、見学させて頂いており地域との関わりを大切にしている。

## 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の環境上、日々の外での散歩はおこないにくいですが、屋上が高く、見晴らしもよく、野菜作りをするなど多目的に活用している。気候のいい時期はテーブルを持ち込み、おやつレクレーションで楽しんでいる。同じ建物にある小規模多機能型居宅介護事業所へ歩いて行き、歩行訓練を兼ねての交流を積極的に図り、毎日のラジオ体操を日々の日課とするなど、利用者が生き生きと生活できるよう努めている。今年度、管理者が交代し、改めて事業所の理念づくりにも取り組んでいる。今後は、季節に応じた花見や夏祭り、その他年間イベントの企画や防災訓練への取り組みなど、家族や近隣の地域住民への積極的な声掛けや参加を促し、より地域に根差し開かれた事業所作りを目指そうとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念を入社時に説明し、自分たちが考える介護を管理者と話し合う機会を設けている。また、カンファレンスなどでも意見を出し合い話し合う機会を作り、職員、管理者で理念を共有している。	法人の理念をネームホルダーに携帯し、日々振り返りの機会を設けている。職員全体会議で意見を聞き取り、次年度、新たに事業所の理念を作り、職員の意識の向上につなげ実践したいと管理者は考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行っている行事・イベント(夏祭り・文化祭等)に積極的に参加し地域との交流を行っている。	近隣の住宅街に事業所の紹介などのポスティングをするなど、地域つながりを持てるよう努めている。自治会との情報交換、交流もあり、協力を得ている。これから一緒に行える防災訓練などの取り組み、運営推進会議への参加も呼びかけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事・イベント参加時や運営推進会議に参加された方々に、施設の役割や状況を知って頂く様に機会を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通じて地域参加の案内、サービスの報告を行なっている。また、地域の方からの発信の場としても情報を提供して頂いている。	家族から、事業所の建築上の防災に関する不安要素が挙がったことを受け、説明の場を設けた。地域からの参加がまだ得られておらず、これから家族や地域住民の関心のあるテーマを具体的に取り上げ、参加を促す働きかけを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より何かあれば、地域包括支援センターの方や市役所担当の方に報告・相談を行ない、指導・助言を頂き、より良いサービス提供が出来る様に努めている。	今年度、管理者の交代及び入居予定者の対応について相談するなど随時、連絡、報告等を行っている。市の外部研修にも積極的に参加し、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時研修で身体拘束研修を受けたうえでの現場配置となっている。年に一回以上身体拘束の研修を行っており、職員が日々の業務を振り返る機会を設けている。	玄関の施錠は開錠されている。フロアーごとの開錠は利用者の安全を配慮し、時間を決めて行っている。現在、やむをえず夜間のみセンサーマット使用の利用者がいるが、一定期間のみの使用もあった。	センサーマットの使用に当たった経過等の記録整備及び介護計画への反映等が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修で虐待防止研修を受けたうえでの現場配置となっている。年に一回以上虐待研修を行っており、職員が日々の業務を振り返る機会を設けている。また、管理者に相談できる機会(月1面談)を設け、疲労やストレスの把握を行っている。	夜間、睡眠の浅い利用者が、時折暴力的になることがあり職員間で話し合った。結果、昼間の運動やレクリエーションへの参加により、夜間熟睡してもらえるようになった。又、職員がストレスを溜めないよう話し合える体制があり、管理者が月に一度、個別面談等で配慮に努めている。	

# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修を学ぶ機会を設けている。現在、後見人制度を利用されている方がいる為、講師を依頼している。	現在、利用者の事例を基に、今後年間研修の中に取り入れ、全職員で学べる体制作りを検討している。運営推進会議でも取り上げ、利用者の家族にも発信し活用していきたいと管理者は考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には口頭及び文書で説明を行い不安や疑問点に関しても不安解消、疑問の解決に努めている。	家族の不安要因である看取りについての説明や退居事項、料金についてなど、丁寧にわかりやすく説明している。その他専門医などへの受診は基本家族対応であることなど、事業所の出来ること出来ないことを明確にし、理解を得ている。制度改定時は、書面で案内、必要であれば口頭での説明も行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の面会の際に、意見を聞く機会を設け運営に反映させている。事業所入口に意見箱を設置している。	家族から「歩行練習をもっとおこなってほしい」との要望があった。日々のラジオ体操の後、リハビリを兼ね、階下の小規模多機能に歩いて遊びに行くことで、利用者の楽しみともなり反映した。運営に関する意見はほとんど挙がらない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスや個人面談を実施し職員の意見を聞く機会を設けている。またまんてんホットラインがあり、職員が直接本部に相談できるツールを作っている。	今年、管理者が変わり、各フロアリーダーが主となり管理者へのサポート体制について話し合い、意見を出し合った。本社からはエリアマネージャーが適時事業所を訪問する体制が整備され、職員の話を直接聞いたり、相談できるなど法人による充実したサポートが確保されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者にはステップアップの為に社内研修を設けており、やりがいを持って働ける様環境を整えている。また、各職員に個人目標を立て、達成できているか聞き取る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修を積極的に行い、スキルアップを行っている。また、管理者と職員の個別での面談を実施し、ケアに困っていることを話し合う機会を作っている。月1回まんてんセミナーを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での事業所交流会は定期的に行っている。川西市内のグループホーム連絡会では同業者との交流の機会作りに向けて話し合いを行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の時に本人様に要望や不安点をお聞きし、早期の信頼関係の構築に努め、日々の関わりの中からも本人の意思確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談時に家族様の悩みや困り事を解消出来る様に懇切丁寧に話しを聞き相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人様、家族様の状況や要望を確認した上で自施設のサービスだけではなく他の介護サービスについても説明し本人、家族様にサービスを選択して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り自立した生活を営んで頂ける様に本人様の出来る事、出来ない事を見極め能力を最大限活用できる様に職員一同ケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や運営推進会議時に本人様の普段の生活状況をお伝えし、ご理解を頂いている。また、出来るだけ面会に来ていただけるようお願いしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で家族様・友人・知人との面会を歓迎し又、家族様の協力により自宅や馴染みの場所(公園や美容院等)にお連れ出来る様に提案し関係作りに努めている。	家族の協力を得て、理美容や馴染みの店での買い物などへ行っている。利用者からの要望で個別に馴染みの店へ買い物に行くこともある。気候のいい時期は、外食にも出かけている。小規模多機能型居宅介護事業所との行き来もあり、ここで馴染みの関係が継続されている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り協力して共同生活を営める様に一人一人の性格や出来る事を把握し職員が間に入り、支え合える支援に努めている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後の利用先とも連絡を行ったり家族様から相談があれば出来る範囲での協力が出来る様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様とのコミュニケーションの中から得た情報をカンファレンスで共有し、ケアプランに盛り込めるように繋げている。	把握困難な場合、家族からの情報を参考に、日々の変化に注意しつつ、指さしなどで、コミュニケーションを図ることもある。食事の時間を知らせると、食事拒否が続いた利用者がいたことから、無理に決まった時間でなく、自分のペースでいつでも食事ができるように配慮することで解決できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況の把握を行い、その人らしい生活を送れるように努めている。意思表示の難しい方には、家族様の意向を確認したり、本人様の状態により家族様に分かる事を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や体調の変化など見逃さないように支援しながら様子観察をし、状況を介護記録に記載。毎日の申し送りや記録を振り返り、ケアカンファレンスで意見交換し、アセスメント要約表も活用している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人様、家族様、職員と話し合いの場を設けている。必要に応じて、主治医・訪問看護師へも相談している。また毎月のケア会議でも職員間で意見交換を行い、現状に即した支援が出来るか振り返り、次の計画書を作成する際参考になっている。	全職員が日々の観察と記録の積み重ねを基に、モニタリングをしている。家族の要望や意見、医療関係者からの助言等を得て担当者会議で検討し、アセスメント及び計画の見直しを行っている。他職種、家族がチームとして介護計画作成に関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を個別に記録、職員間での情報を共有する為に、変化や気づき等記入する「申し送りノート」を活用している。また、計画書更新時は、カンファレンスにてモニタリングを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、家族様のみでの対応が厳しい時は、送迎、付き添い、移乗等行っている。家族様が遠方の場合、衣服や身の回りの生活用品の購入など家族様に代わり行っている。		

# 自己評価および第三者評価結果

## まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要なニーズに対応する為、地域の資源を活用して、その人らしい暮らしの実現出来るよう支援している。 地域の行事に、参加し地域の方との交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力指定医の往診、訪問看護の巡回を行っており、従来のかかりつけ医の継続希望の場合は入所前のかかりつけ医を専門医(眼科・神経内科など)として継続受診されている。	従来からの眼科、精神内科へのかかりつけ医継続があり、家族による通院となっている。多くは利用者、家族の希望により協力医の往診を受けている。訪問看護により定期的な点滴を受けている利用者もあり、適切な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の前々日には、事前に身体情報を提供し、訪問時直ぐに対応できるように連携を図っている。訪問以外の日でも電話相談出来る体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者、ご家族様と密に連絡を取り、安心して治療が出来るように情報提供をし、入院時の様子を把握するように努めている。出来るだけ早く元の生活に戻れるように、医療関係者、家族様と一緒に相談出来るような場を設けるなど関係づくりに努めている。	水分摂取、ラジオ体操といった健康面での意識付けを図り、入院回避を図っている。入院中は見舞い、様子観察し、早期退院への準備につなげている。退院に向けてのカンファレンスに参加し、医療関係者の意見や福祉用具利用も勘案して、事業所での受け入れを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。終末期の支援については、施設で出来ることを十分に説明した上で、本人様にとって最善の看取りを選択できるように、本人様、家族様、医療機関等話し合うようにしている。	今年度看取りを1件経験した。初めて看取りを経験する職員にとって、夜間対応に大きな危惧を感じていた。しかし、日中に全職員と家族、そして利用者も一緒に見送ることができた。自然な最期を希望した本人、家族の意向にそえ、職員にとって大きな経験となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には、救命講習の受講を推進している。急を要する時、適切に初期対応をし、救命できるように今後も定期的に受講を推進し、必要とする時実践できるよう研修を計画している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に備え、消防署の指導の下年2回施設全体で合同訓練を実施。日中・夜間想定で行い、初期消火・通報訓練も行っている。また、水害に対してもマップで確認している。	日中、夜間想定避難訓練を利用者参加のもとに行った。消防署立会いのもと実施後講評も得た。運営推進会議での協力要請に、家族の参加を得たものの、地域との協力体制はまだ手付かずの状態である。	自治会員として、まずは地域の避難訓練への参加から試みられてはいかがか。

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉遣いには細心の注意を払い、職員同士で注意している。お一人お一人の全人格を受け止め、尊厳のある姿を大切にしている。	入浴時の同性介助には、利用日をずらすなどの工夫をして対応している。利用者への呼びかけやトイレ誘導時の声掛けなどにも注意している。日頃の忙しさに追われ、無言でケアすることの無いよう、必ず声掛けすることを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で密にコミュニケーションを取り、入居者様の思いを大切にし自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の今までの生活リズムも大切にしながら施設都合にならないように入居者様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服の選択ができる様に入居者様に確認しながら支援している。家族様より要望のある時は一緒に買い物に行き選んで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛り付けや食器洗いは入居者様と一緒にしている。食事形態をご入居者様に合わせ食べやすく安全な食事を提供している。	BGMをかけ、会話を楽しみながら食べているが、職員は一緒に食していない。利用者の嗜好については、毎月業者へ報告し改善している。回数は少ないが、食事レクやおやつレクで利用者と一緒に作る努力をしている。	家族の試食会も含め、職員も一緒に食べる機会を持ってほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量を記入し、把握している。水分量の少ない入居者様には、こまめに提供している。家族様が好みの食事を持参される時は提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している就寝前には義歯を使用されている方は職員がお預かりし義歯洗浄剤を使用し保管している。週一回の訪問歯科により、ケアや必要時には治療を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の排泄パターンを把握し、定期的に声掛け、誘導をすると共に、その方に合ったリハビリパンツやパットを検討し出来るだけトイレでの排泄ができるように努めている。	自立の利用者もいるが、多くの利用者は声掛けをし、失敗を防いでいる。夜間、ポータブルトイレを使用する利用者もいるが、日中はトイレでの排泄を促している。リハビリパンツの種類を検討し変更することで、尿漏れを防げた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を実施し、主治医、訪問看護師と連携を取り、排便コントロールを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にお声掛けをしご希望の時間をお聞きし対応している。入浴拒否のある方にも出来るだけ本人のペースを乱さないようにお声かけし、対応している。	週に2~3回の個浴となっている。職員と歌を歌うことや入浴剤の使用を楽しむ利用者もいる。拒否のある利用者には、声掛けする職員を変え、本人の気持ちに寄り添い利用につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の今までの生活習慣を大切に可能な限り、就寝時間、起床時間は入居者様のリズムに合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については細心の注意を払い、職員複数で確認を行い服用して頂いている。薬情報のファイルを作り職員全員でどのような薬を飲まれているか把握し、必要に応じて薬の変更を往診医や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様と相談の上、洗濯物干しや取り入れ、食器洗い等を職員と一緒にさせていただいている。レクリエーション時には個々のご希望を取り入れ、実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は難しいが、屋上スペースに菜園があり外気浴を実施している。家族様の協力のもと、外出を楽しまれている。又、個別レク、遠足、地域行事には外出支援を行っている。	通院時に家族の協力を得て、買い物や外食する利用者がある。個人レクとして、いちご狩りや大型スーパーに買い物や外食にグループで出かけている。利用者全員で手作りした作品を地域の文化祭に出品し、見に出かけてもいる。	



# 自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居者様でご自身で金銭管理を行われている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいという希望があった場合はお掛けいただいている。外からのお電話を頂いたときには取り次いでいる。郵便物もご自由にやり取りできるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行い季節感を感じて頂けるよう配慮している。又、ソファの位置やテーブルの位置なども居心地良く過ごせるよう考えている。	決して広くはないが、家庭のリビングのようなたずまいで、ソファやテーブルがある。その配置も時々模様替えされ気分転換を図っている。壁には季節を感じるタペストリーが飾られている。階下の玄関前には行事の時の楽しい写真がたくさん飾られ、利用者は職員や家族と行き来の際に足を止め、話に花を咲かせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イベントがあった後に写真を現像し、玄関に張り出している。また、刺激のあるものでなく心地の良いものにし居心地を確認している。居室とフロアの行き来は自由に行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使い慣れた物を持ってきて頂き自宅と変わりなく安心して生活が出来るように福祉用具等も取り入れている。	ぬいぐるみや家族の写真、サイドテーブルに椅子、空気清浄機に歩行器と、広い居室が温かく感じられる。そうかと思えば、クローゼットとベットのほかに、枕元に目覚まし時計だけがある居室もある。各人各様の居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が困難な方には安全に歩行ができるように手すりを設置している。また、食事の場所、トイレの場所が分かりやすいように張り紙で対応しており、出来る事はして頂いている。		